【喜界町】
校務 DX 計画

令和2年度に校務支援システムを導入し、校務管理・学籍管理・成績管理・保健管理のデジタル化に加え、教職員同士の校内連絡やスケジュールの管理・共有、出退勤の管理等についてもデジタル化を行ったところである。

現在導入されているシステムや環境を効果的に活用し、職員会議のペーパーレス化に取り組む学校も出てきている。このような先進的な取組を参考事例とし、今後は域内の他の学校への横展開を図るための取組を推進する。

また、校務支援システムについては、リプレイスの時期に併せてクラウド化への移行を検討している。その際には、デジタル教材・ツール等の学習成果と校務支援システムの名簿情報や成績管理との連携を図るなど、校務系と学習系がシームレスに繋がる効率的で効果的なシステム構成になるよう進めていく。

さらに、これまで慣例的に行ってきた日々の業務のやり方や進め方などを改めて見直し、FAX や押印の廃止、不要な手入力作業の一掃、保護者等との連絡・調整におけるデジタル活用など、教育における DX を推進し教職員の働き方を改革することで、子供たちと向き合う時間を生み出し、教育の質の向上を目指していく。

【喜界町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末を始めとするICT環境を活用することで、学びは個別最適化され、児童生徒が個々のペースや進度等に応じて学習することが可能となる。また、オンラインツールを活用した協働学習も可能となり、地理的な制約を受けず、様々な人々との交流から多様な視点を取り入れた学びが実現するほか、探究的・創造的な学びを深めることで、社会の課題解決に向けた実践的な力を養うことが出来る。

このような環境を効果的に活用することで、学びの質を高め、児童生徒の可能性を最大限に引き出す教育の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に児童生徒1人ひとりへの端末の配備及び高速大容量の通信ネットワークの整備を行い、校内どこにいてもネットワークに接続できるICT環境を整えた。

授業等でのGIGA端末の利用頻度については、教職員によって差が見られるが、週3回以上利用している割合は約60%であり、おおむね日常的な活用が進んでいるとみられる。

一方で、端末の持ち帰り学習については、長期休業中の持ち帰りや試験的な取組はあるものの、日常的な取組には至っておらず、「GIGA端末が文房具のひとつにはなりきれていない」状況にある。

端末の持ち帰り学習については、デジタルドリルでの課題配布や成果物のデータ提出による確認・添削作業など、教職員の業務効率化や負担軽減にもつながっており、今後、積極的に取り組む必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期で導入した端末については、令和7年度に更新を予定しており、今後も計画的な更新を行うことで児童生徒1人1台端末環境を継続していく。

また、学習支援アプリやAIドリルなどについても、児童生徒の実態に応じた見直しを行い、児童生徒が個々の状況に合わせて学習できる環境を整える。

さらに、不登校児童生徒や障害や病気療養中の児童生徒など、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じた支援を実施することが可能となる。また、ICTを活用することで、オンライン学習の提供や個別指導、メンタルヘルスのサポートなど、児童生徒が学び続ける環境を整える。